

『手袋を買いに①』

新美南吉

寒い冬が北方から、狐の親子が住んでいる森にもやって来ました。

ある朝、洞穴から子狐が出ようとしたが「あつ。」と叫んで目を抑えながら母さん狐のところへ転がって来ました。

「母ちゃん、目に何か刺さった、抜いてちょうだい早く早く！」と言いました。

母さん狐がびっくりして、目を抑えている子どもの手を恐る恐るのけて見ましたが、何も刺さってはいません。母さん狐は洞穴の入口から外へ出て、始めてわけがわかりました。昨夜のうちに真っ白な雪がどっさり降って、雪はお陽ひさまの光をキラキラと反射していたのです。雪を知らなかった子どもの狐は、まぶしさのあまり目に何か刺さったと思っただけでした。

子どもの狐は遊びに行きました。真綿のように柔らかい雪の上を駆け廻ると、雪の粉が、しづきのように飛び散って小さい虹がすっと映るのです。

すると突然、うしろで「どたどた、ギーっ」と物凄い音がして、パン粉のような粉雪が、ふわーっと子狐におっかぶさって来ました。子狐はびっくりして、雪の中にごろごろするようにして十メートルも向こうへ逃げました。何だろうと思っただけで振り返って見ましたが何もいませんでした。

1 回目
分
秒

2 回目
分
秒

3 回目
分
秒